

〔西宮記 正月下〕御粥 十五日、主水司獻御粥事七種付女房供之、御

〔年中行事秘抄 正月〕十五日、主水司獻御粥事付女房

十節云、高辛氏之女、心性甚暴惡、正月十五日、巷中死、其靈爲惡神、於道路憂吟、過路人相逢、卽失神、人令盜火、此人性好粥、故以此祭其靈、無咎害、凡作屋產子、移徙、有恠、則以粥灑於四方、災禍自消除矣、月舊記云、天平勝寶五年正月四日、勘奏云、黃帝伐蚩尤之時、以此日伐斬之、其首者上爲天狗也、其身者伏而成蛇靈也、是以風俗、此日亥時煮大小豆粥、而爲天狗祭於庭中案上、則其粥上凝時、取東向再拜、長跪服之、服者終年無疫氣也、又俗諺云、草繫ト云リ、故者草束、此蚩尤之身者、是以草束家、則竊取草束、而於家內密所藏置、則其家者當年之內終無疫者也、

七種粥 小豆、大角豆、黍、粟、藁子、薯蕷、米、延喜主水司式云、正月十五日、供御七種粥料、米一斗五升、粟、黍子、稗子、藁子、胡麻子、小豆各五升、又云、白穀、大豆、小豆、粟、栗、柿、藁子代大豆、此事見九條殿御記并外記記云々、

御記云、寛年二年二月卅日丙戌、仰善曰、正月十五日七種粥、三月三日桃花餅、五月五日五色粽、七月七日索麩、十月初亥餅等俗間行來、以爲歲事、自今以後、每色辨調、宜供奉之、于時善爲後院別當、故有此仰、

〔建武年中行事〕十五日○正月、御かゆなどまいる外、ことなる事なし、わかき人々杖にてうちあふことあり、

〔公事根源 正月〕獻御粥 十五日○中略

寛平の比より、年毎に是を奉る、其外三月三日などの御節供も、此御時より同定めらる、七種の粥とは白穀、大豆、小豆、あは、くり、かき、さ、げなど也、と九條の右丞相の御記にみえたり、

〔厨事類記〕臨時供御○内院、宮儀、中略 正月十五日 御粥○中略 已上小預給料米備進之